

4 初期消火訓練実施要領

4. 1 事前準備から撤収の流れ

事前計画

- ・【いつ、どこで、誰に実施するのか。】
- ・ 地域住民の参加しやすい日時で、なるべく住民の居住区近辺で訓練を実施しましょう。また、集める対象者を決定し、参加人数を見込みます。
- ・【資器材は何が必要か。】
- ・ 模擬消火器なのか、スタンドパイプなのか、訓練の主となる資器材を検討し、予定参加人員から資器材の必要数を決定します。
- ・【関係する団体との調整をする。】
- ・ 消防職員の出向依頼など、計画概要について消防署に相談しましょう。
- ・ また必要に応じ、警察、区役所等に連絡し、近隣住民の承諾を得ておくことも必要です。

計画を知らせる

- ・ 訓練概要を地域住民に知らせます。
- ・ 方法は、地域によって様々です。回覧を利用したり、定期集会時に知らせる方法等があります。

事前準備

- ・ 訓練用資器材やその他必要な物を準備しましょう。資器材は点検を行います。
- ・ 参加者は動きやすい服装で、訓練を始める前には準備運動等を実施するようにしてください。
- ・ 道路を使用する場合は、要所に交通整理員を配置するようにしましょう。

訓練開始

- ・【訓練中の事故防止】
- ・ 訓練開始前に、参加者に訓練の主旨、内容、事故防止について十分に説明しましょう。
- ・ 訓練中は、参加者の安全を第一に活動しましょう。
- ・ 訓練会場付近を歩行者が通る場合があるため、十分注意しましょう。

訓練終了

- ・ 会場及びその周辺の後片づけを十分に行いましょう。
- ・ 資器材等を整理し、借用品は確実に返却しましょう。
- ・ 訓練の反省会を開くことも重要です。



実際の訓練風景



消火器訓練



スタンドパイプ訓練



D級可搬消防ポンプ訓練



避難訓練



救助・救出訓練



応急救護訓練

【留意事項について】

- (1) 消火栓や排水栓、防火水槽等の水利を使用する場合には、消防職員の立会いが必要です。
- (2) 参加者の年齢、服装、健康状態等を把握しましょう。体調不良や、様子がおかしい等の場合は、無理に訓練に参加させないようにしましょう。
- (3) 訓練中に危険と思われる行為については、速やかに中止させてください。
- (4) 雨天、荒天等の場合はためらわず延期や中止にすることも必要です。
- (5) 実際に火を扱う訓練では、監視員を配置するなどし、火に近付き過ぎてケガをしないように注意喚起しましょう。

4. 2 “まちかど防災訓練”について

(1) “まちかど防災訓練”とは

実際に自分たちの生活する街なかで小規模な防災訓練を実施することを指します。従来の集合型の訓練とは違い、普段から自分たちの住む街なかで**実際の水利、資器材の置いてある場所等を確認・把握**しながら実施することで、地域内の防災行動力を大きく高めることができます。

また、小規模で居住区の近い住民同士で実施することで、**住民相互の連携強化**や避難時に支援が必要な人の把握等、多くのメリットがあります。



(2) 訓練概要

ア 訓練場所

居住する区域周辺を原則とします。周辺での実施が困難であれば、その居住区の一時的集合場所等を選定しましょう。この場合、居住区で実施可能な訓練はできる限り居住区周辺で実施し、その後に集合場所で他の訓練を実施するようにしてください。

イ 訓練日時・時間

必ずしも土日とは限りません。人が集まりやすい日を設定しましょう。訓練時間は、朝方の比較的早い時間帯や、住民が集まりやすく負担にならない時間帯で、短時間で終了するよう計画してください。

また、地域のイベント等と合わせて実施すると効果的です。

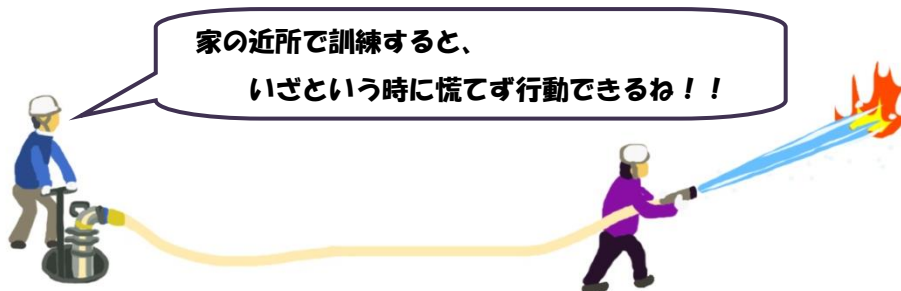
ウ 訓練対象・規模

同一居住区内（同一ブロック内や町会の班ごと等）に居住または勤務する数名から数十名を実施対象とします。

※地域の人々の居住区内で実施するため、参加しない住民にも知らせるようにしましょう。

エ 訓練内容

実践的な小規模訓練を原則として、前ページの訓練風景などの訓練を実施します。実施時間は短時間であるため、一度に全ては出来ません。訓練を計画する際に、どの訓練を主とするのか決める必要があります。



(3) 訓練時の安全管理について

- ア 街なかで訓練を行うことから、事前に訓練場所、訓練内容、日時などについて、**無理がないか十分検討**してください。
- イ 使用する資器材については、地域にある資器材を使用することから、**事前に点検**を行い異常がある場合は、使用を中止してください。
- ウ 参加者の年齢、服装、健康状態等を把握しましょう。体調不良や、様子がおかしい等の場合は、**無理に訓練に参加させないように**しましょう。
- エ 訓練中に危険と思われる行為については、**速やかに中止**させてください。
- オ 雨天、荒天等の場合は**ためらわず中止**にすることも必要です。
- カ 訓練参加者以外の一般人が訓練会場内に入ったり、通過したりする可能性があるの**で、事故防止に十分注意**してください。
- キ 火を扱う訓練では、監視員を配置し、**火に近付き過ぎてケガをしないよう注意喚起**しましょう。なお、助燃材には、ガソリンやシンナー・アルコール等は**使用しない**ようにしましょう。

(4) 留意事項

ア 道路使用許可

まちかど防災訓練を含め消火栓や排水栓等を使用する訓練では、道路交通法第77条に定める道路使用許可の申請が必要になる場合があります。申請が必要かどうか不明な場合は、管轄の警察署に相談してください。

イ 訓練中の事故等について

訓練を実施する場合、事前に市役所や区役所に届出ましょう。届出がない場合、補償が受けられないことがあります。

住民が使用できる消防水利活用要領（特別区内）

水利種別	地震時	通常火災時	訓練時
消火栓以外の水利	使用可 ただし、消防隊及び消防団が到着後はその指示に従う。		使用可 ただし、使用時には事前に申し出る。 消火栓、排水栓及び東京消防庁の所有する防火水槽等を使用する場合は消防職員の立会いを求める。
消火栓			
排水栓			
水使用料	東京消防庁で負担		東京消防庁で負担。ただし、使用時には事前に申し出る必要があります。

※特別区以外の地域については、地域の実情に応じて、消火訓練等の指導を実施してください。






4. 3 災害時消火に使用できる様々な水利

I はじめに

地域住民の方々は災害時に消火活動のため、消防用に設置された水利を使用できます。各地域の居住区の中にそれぞれ設置されているものです。みなさんの自宅から最も近い水利はどこにあるのでしょうか。自らが生活する地域の中にどのような水利が設置されているのか確認することも日頃から実践できる防災訓練の一部です。積極的に確認し合って、災害時に活用していきましょう。

II 水利の種類

防火水槽			<p>設置場所:公園、学校など 常に一定の量の水が蓄えられており、火災時に使用できます。 歩道や路上にあるものは周りに黄色のラインが引かれています。蓋を開けるには消火栓鍵などの工具が必要になります。</p>
	防火水槽標識	防火水槽鉄蓋	
		<p>地域住民が活用しやすいよう、木造住宅密集地域の公園内の、東京消防庁が所有する防火水槽の蓋には、軽可搬消防ポンプの吸管が容易に投入できるよう小さい蓋（直径 20 cm 重量 5kg）を鉄蓋（直径 60 cm 重量 4.4kg 以上）に併設したものがああります。</p>	
	親子蓋		
消火栓			<p>設置場所: 道路・歩道など 消火栓は、水道を利用しているため、震災時に水道管が被害を受けた場合は使用できないことがあります。 ※蓋の周りに黄色のラインが引かれているものもあります。</p>
	消火栓（丸型）	消火栓蓋を開放した状態	
			<p>①消火栓(角型):蓋が四角い消火栓もあります。 ②区画量水器:制水弁の操作が禁じられていること及び放水弁は、1/4回転で全開となるので、使用の際は、注意が必要です。</p>
	①消火栓（角型）	②区画量水器	

排水栓			設置場所: 道路・歩道など 排水栓は、消火栓と基本的に同じものです。原則として蓋に青色のラインが引かれています。 使用の際、私道上にある場合は、地権者の了承を得る必要があります。
	排水栓	排水栓蓋を開放した状態	
自然水利等	防火水槽や消火栓などのほかにも、災害時に使用できる水利があります。海、池、川のような自然の水やプールなどの水などです。そのような場所には、消防水利の標識が掲げられています。 D級可搬消防ポンプの吸管の長さには限界がありますので、使用できる状況は限られますが、災害時には有効な水利となります。 なお、使用する際には、転落などの事故に気を付けましょう。		
標識			
	防火水槽	消防水利	消火栓

Ⅲ 消防水利活用上の留意事項

- (1) 上記の水利を、訓練で使用する場合には消防署員の立ち合いが必要となりますので、事前に管轄の消防署に相談してください。
- (2) 消火栓や排水栓には、D級可搬消防ポンプの吸管を直接つなげることができません。使用するためには、消火栓（口径 65 mm）と吸管（口径 40 mm）をつなぐ媒介金具が必要になります。なお、蓋を開放するための工具（消火栓蓋開放用パール）、開栓のための工具（スピンドルドライバー）及び媒介金具は、D級可搬消防ポンプと一緒に配置されている場合もありますので確認してみましょう。

消火栓開放用パール		消火栓及び防火水槽の蓋を開放するための工具です。
スピンドルドライバー		消火栓を開栓するための工具です。 ※D級可搬消防ポンプには、配置されていない場合があります。
媒介金具		消火栓（口径 65 mm）とD級可搬消防ポンプの吸管（口径 40 mm）をつなぐ金具です。

4. 4 ホースの巻き方、伸ばし方

—代表的な二つのホースの巻き方、伸ばし方—

①一重巻き（シングル巻き）	②二重巻き（ダブル巻き）
	
<p>結合部(オスのみ)が真ん中にあるのが特徴です。</p>	<p>結合部(オスとメス)が外側にあるのが特徴です。</p>
<h3>【 巻 き 方 】</h3>	
	
<p>真っ直ぐに伸ばした後、オス側の結合部を巻き込むようにして、緩みなく巻いていきます。巻くと同時に、ホース内の水を排出できるため、二重巻きをする場合でも一度この巻き方をする必要があります。</p>	<p>オス側の結合部を上側にしてホースを二つに折り、写真のようにずらして置きます。結合部ではない方から緩みなく巻いていきます。補助者は、上側のズレを直しながら巻く補助をしていきます。</p>
<h3>【 伸 ば し 方 】</h3>	
	
<p>転がして延長します。中心の結合部(オス)を引き抜くと、ホースがねじれるので、気をつけましょう。</p>	<p>二重巻きの場合、転がして延長する他に、片方の結合部を持って移動することで延長することもできます。</p>

※延長の際は、ホースの巻いてある状態をよく確認し、絡まらないように注意しましょう。
 ※十分に伸ばしきっていない状態で送水すると大変危険です。ホースはなるべく真っ直ぐ、しっかりと伸ばしましょう。